

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員一同で考えた理念を目標に日々努力している。理念を共有し実践につなげている。毎朝、理念の復唱を行い理解を深めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回ボランティアの受け入れをしている。毎月の行事(外出デイ・敬老会)などには地域の方々にも参加してもらっている。地域の文化祭、夏祭り、運動会へ参加し保育園との交流も図っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進委員会議、家族会、毎月の家族へのお便りを通じて、認知症に対する理解や協力を得られるように情報を発信している。地域の方々を対象に認知症サポーター養成講座に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のケアや取り組んでいること、計画していることを行政・地域・家族に報告・相談してサービスの向上、ケアに活かす取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	家族からの相談などで解決困難な事例には行政に相談を行い、的確に応えられるように連携を図っている。また、運営推進会議で市の担当者と意見交換をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、拘束について勉強会を実施、禁止対象となる具体的な行為を理解しケアに取り組んで全職員の共通認識を図っている。施錠せず見守りを行い、玄関、非常口にはセンサーがあり対応できている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会を開催し、全職員が学べるように取り組んでいる。虐待が見逃されることがないように注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会や勉強会で権利擁護に関する事を学んでおり、必要に応じ活用できるように取り組んでいる。自立支援についてはプラン作成により検討し、職員はプランに沿って支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には施設のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた施設の対応可能な範囲について説明を行っている。家族からもケアの要望を頂き、施設での生活が良いものになるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの要望があった場合には、入居者の状態を考慮しながら対応している。電話や面会時に話す機会を設けて要望を取り入れていけるようにしている。家族全員に無記名でアンケート調査を行い、職員間で共有を行いケアに反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員会、ケア会議を実施して、その中で職員の提案や意見を聞く機会を設け反映させている。職員間で意見を言い合いやすい雰囲気作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員のレベルアップのため、研修会にも参加してもらい向上心が持てるように努め、業務の内容も役割分担し責任持って取り組めるようにし、必要に応じ業務改善も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修に積極的に参加できるようにしている。また、職員会議などにて医師に質疑応答する事で職員の質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームと意見交換や質の向上に向けた勉強会を定期的に行っている。また、グループホーム連絡協議会等に参加して、同業者との交流の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報をもとに、話題提供しながら積極的に関わりをもつように心がけている。不安・要望等を十分に聞かせて頂き、安心して生活できるようなサービス提供を行う事で良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活暦や本人についての情報を家族から聞き取り、ご家族・本人が不安を解消できるようなサービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	プラン作成時には本人及び家族の要望を取り入れ、優先順位を決めてサービスの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	定期的に調理レクを行い、『昔取った杵柄』を活かせるような支援を行っている。また、入居者とのコミュニケーションの中で笑ったり喜ぶなど楽しい時間を共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めに家族に便り・写真にて状況報告を行い、面会時にも常に関わりを持ち状態の説明を行っている。また、体調不良時はこまめに家族と電話連絡を取り遠方にいるご家族も状況把握がしやすいように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと散策ドライブや、住み慣れた地域に出掛ける事により、馴染みの関係性の継続を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や、感情の変化を理解したうえで、入居者同士が協力し合い、良好な関係がもてるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設、病院などに移られた方には、これまでの生活状況や支援状況・注意点など情報提供を行い、生活する場所が変わっても生活の継続性が出るように努め、家族からの相談を受けるなど関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員による一方的な介護にならないように日常生活の関わりは意思疎通を図る事により本人の意向確認をし、意志疎通困難な方に対しては表情や言動などから本人の意向を推測しケアに活かせるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取りを行い、家族やケアマネージャーから情報収集を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントで得た情報を計画に反映させ、日々の生活の中で現状有する能力等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日々の関わりの中で思いを反映させることができるようにしている。モニタリングや解決すべき課題についてケア会議や職員会議にて共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の言葉、エピソード等も記入し、変更点・注意点は申し送りノートに記入し申し送りで全職員が情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常の通院は施設職員が付き添っている。また本人の通院等必要な支援については柔軟な対応をし、個々の不安を減らすように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きたい場所やしたいものについて把握に努め、その行き先等への事前連絡などは個別に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族と相談を行いながら希望する医療機関への受診が受けられるよう支援している。歯科医師の定期的な往診の協力もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は勤務していないが、医師が2週間に1回の往診に来て下さり、適切なアドバイスをもたらしている。常に入居者の状態変化を見逃すことがないように隣接している特養の看護師・病院の看護師にも相談したりしてアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して治療が受けられるように主治医と連絡がとれるよう常にしている。入居者の入院時には定期的に面会を行い、入院期間や今後の対応等、家族・病院側とも話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と緊急時の対応や今後の方針について家族・医師を交え話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応が出来るように、講習や勉強会、施設内研修等を通して練習を行っている。緊急時のマニュアルを作成し定期的に緊急時の対応方法について確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接した特養と合同で定期的に夜間・昼間想定の大災避難訓練を消防署の立会いの下実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活での関わり方についてはケア会議・ミーティング時に話し合い、誇りやプライバシーを損ねない対応について考える機会を設け、職員のケアを見直す機会としてる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中で本人の意向を聞き出し、自己決定出来るように選択肢を増やすようにし、自己決定困難な方については表情などから推測している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人様のペースで過ごしてもらえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	できる方については自分で洋服を選ぶなど本人の意向で決めている。できない方については声掛けや介助など必要に応じた支援を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が全てを行わず、台拭きや片付け等を一緒に行っている。好き嫌いがある方についても代用にて対応している。月2回のクッキングデイを行い食べたい物を聞きながら献立作成をし、買い物も職員と一緒に買い物食の時間が楽しくなるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回管理栄養士との話し合いの機会があり、相談・アドバイスをもらっている。食事量や水分が少ない時には申し送りで伝達し、主治医の報告などで指示をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、毎食後歯磨きの声掛けを行い、介助が必要な方については一部介助にて清潔に努めている。夕食後は、義歯洗浄を毎日実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけ排泄はトイレで行えるよう支援し、個々人の排泄パターンに応じ声掛けやトイレ案内を行っている。ポータブルトイレが必要な方については設置し、消臭・清潔に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を常に確認しており、水分補給を多く摂ってもらえるように声掛けをし、体を動かす機会を作りできるだけ自然排便が出来るように取り組んでいる。排便困難時は主治医に相談し下剤の服用も検討する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	安心して入浴してもらえるように常に声掛けを行っており、好みの時間に入れるように支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共同スペースで自由に過ごしてもらっている。一人一人の睡眠時に対する希望を考慮しながら、ゆっくりと安心した気持ちで心地よい眠りが出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用などについて処方変更時には必ず確認している。変化がみられる際は速やかに主治医に報告し、対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が喜びのある生活が送れるように役割を担ってもらい、個々の希望に沿った気分転換に対応できるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	できる限り、本人の希望に沿った外出を実行するように努めている。必要に応じて家族の協力を得ながら定期的に行い、普段行けない場所に行くことにより気分転換が図れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方については管理してもらい、金銭管理が困難な方は、家族から預り、施設で管理し、定期的に家族に対し報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話などの希望がある際は自由に話してもらっている。また、可能な方については年賀状や暑中見舞い、手紙などを書いていただき家族に出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り入居者にとって過ごしやすい環境の維持に努め、季節感や生活感を感じていただけるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の交流の場所になるようにソファを設置したりして他入居者・職員とゆっくり話せる環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用していた家具などを持ち込んでいただいております、本人にとって心地よい居室空間になるよう心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能の低下を防ぐ事が出来ることを活かすよう心掛け、手すりの設置や居室内の家具の設置場所にも配慮し安全に生活できるようにしている。		